

(仮称) みさき農業公園基本計画策定委員会 (第2回)

次 第

日時：令和6年12月2日(月)10時～

場所：岬町役場 3階 第2委員会室

1. 開会

2. 第1回委員会の振り返り 資料1 参考資料1

3. 各種調査結果の報告

(1) 地権者へのアンケート調査結果(速報) 資料2

(2) 町内団体等への追加ヒアリング調査結果 資料3

4. (仮称) みさき農業公園の基本理念・展開イメージ、 実現に向けたモデルプロジェクト(案) 資料4

5. (仮称) みさき農業公園基本計画の目次構成(案) 参考資料2

6. その他

・ 次回の開催日程

■配布資料

次第

資料1 第1回委員会記録

資料2 地権者へのアンケート調査結果(速報)

資料3 町内団体等への追加ヒアリング調査結果

資料4 (仮称) みさき農業公園の基本理念・展開イメージ、実現に向けたモデルプロジェクト(案)

参考資料1 第1回委員会の内容に関連する参考事例

参考資料2 (仮称) みさき農業公園基本計画の目次構成(案)

地権者へのアンケート調査結果(速報)

I. 調査概要

- 調査の名称:現在の営農状況や、将来の営農意向などに関するアンケート調査
- 調査の目的:(仮称)みさき農業公園基本計画に関する基礎調査として、みさき農業公園対象地内における農地所有者を対象に、現在の営農状況や将来の営農意向を把握するためのアンケート調査を実施した。
- 調査の対象:(仮称)みさき農業公園対象地内に農地を所有者する地権者 94件
・岬町が管理する登記簿に記載される地見者を対象
- 調査の方法:郵送による配布・回収
- 調査の期間:2024年10月11日発送、10月29日締切
- 主な調査項目:・現在の営農状況、耕作している農地の状況、後継者の有無
・将来の営農意向、展望等
・直売所への出荷可能性、町の農業振興に関連する取組への参画可能性
- 回収数・回収率:

配布数		回収数		回収率 (b÷a)
配布数	有効配布(a) ※宛名不明分を除く	回収数	有効回収数(b) ※全項目の無回答者等を除く	
94	94	59	59	62.8%

II. 調査結果の概要

■基本属性

- 回答者の性別:「男性」が39名(約66%)、「女性」が19名(約32%)である。
- 回答者の年齢:「70歳代」が22名(約37%)で最も多く、「60歳以上」が全体の約9割を占めている。

■農地の利用意向

- 農地の利用状況:
 - ・回答者(59名)のうち、「耕作していない(遊休農地)」が41名(約70%)、「自身で耕作」が21名(約36%)、「他者が耕作」が12名(約20%)である。※複数回答であるため、合計の%は100%にならない
 - ・遊休農地化する理由は、「高齢・兼業で営農ができない」が26件(64%)、「既に原野化し、耕作の再開が困難」が19件(46%)、「農業機械がない・機械購入費不足」が9件(22%)などである。
 - ・「自身で耕作」している回答者(21名)のうち、18名(約86%)が自家消費で耕作している。

○後継者の状況:

- ・「後継者が就農している(予定含む)」が4名(約8%)、「後継者がいるが、就農するか未定」が16名(約27%)、「後継者はいるが就農しない(予定含む)」が38名(約64%)である。

○概ね5年先の農業経営(農地の規模)の意向:

- ・「農地をすべて手放したい(売りたい)」が28名(約48%)、「規模を縮小したい」が9名(約15%)であり、約6割が縮小傾向にある。また、「現状を維持したい」は18名(約31%)である。

■農業振興に向けた参画意向

○関心や受け入れ意向がある農業体験:

- ・「観光農園」が6名(約10%)、「市民農園」が5名(約9%)、「野菜・果樹に関する農業体験」が4名(約7%)で関心があり、受け入れたいと回答している。

○岬町の新たな特産品づくりとして、共同で農産物を作る取組への参画意向:

- ・「ぜひやってみたい」が1名(約2%)、「やってもよい」が9名(約15%)である。

○耕作してみたい農作物(自由回答):

- ・西洋野菜、ビワ、栗、パパイア、パイナップル、アボカド、めずらしい果樹などがあがっている。

Ⅲ. 調査結果の詳細

1. あなた自身についてお聞きます。

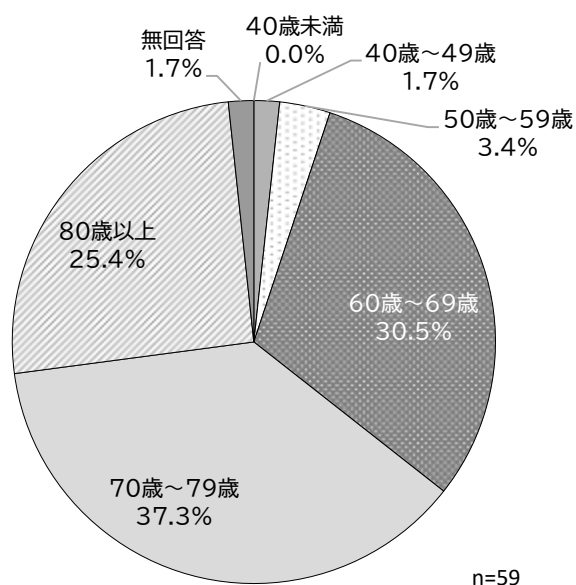
(1)あなたのお名前を教えてください。

※個人情報の観点より未掲載

(2)あなたの年齢を教えてください。(1つに○)

○年齢は、「70 歳～79 歳」が 37.3%で最も高い。60 歳以上で全体の 9 割を占めている。

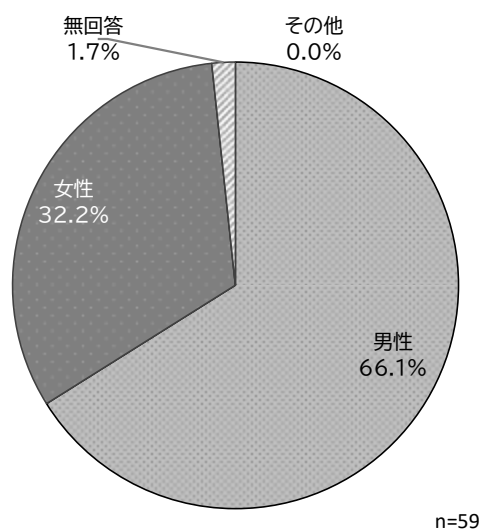
調査数(n=59)	回答数	割合
40歳未満	—	—
40歳～49歳	1	1.7%
50歳～59歳	2	3.4%
60歳～69歳	18	30.5%
70歳～79歳	22	37.3%
80歳以上	15	25.4%
無回答	1	1.7%



(3)あなたの性別を教えてください。(1つに○)

○性別は、「男性」が 66.1%、「女性」が 32.2%である。

調査数(n=59)	回答数	割合
男性	39	66.1%
女性	19	32.2%
その他	—	—
無回答	1	1.7%



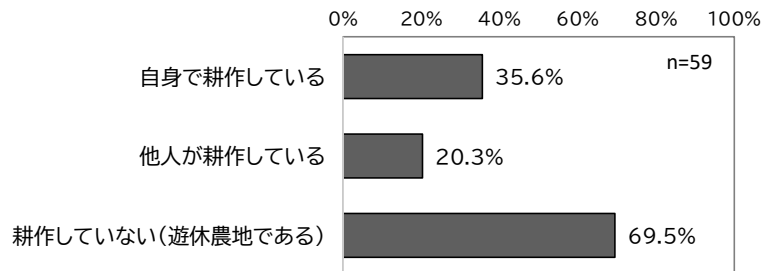
2. 所有している農地の利用状況

(1)あなたが所有している農地の利用状況について教えてください。(すべてに○)

○所有している農地の利用状況について、「耕作していない(遊休農地)」が 69.5%であり、回答者の約7割を占めている。

○次いで「自身で耕作している」が35.6%、「他人が耕作している」が 20.3%となっている。

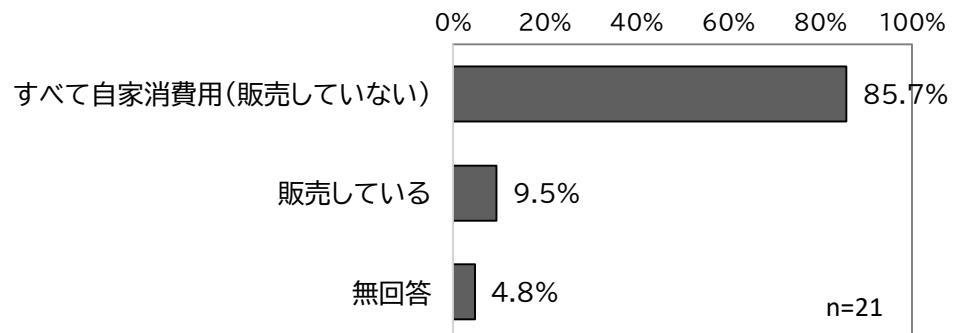
調査数(n=59)	回答数	割合
自身で耕作している	21	35.6%
他人が耕作している	12	20.3%
耕作していない(遊休農地である)	41	69.5%



(1 枝)「自身で耕作している」を選ばれた方にお聞きます。
どのように利用していますか。(1つに○)

○自身で耕作している農業者の農地の利用状況について、「すべて自家消費(販売していない)」が 85.7%である

調査数(n=21)	回答数	割合
すべて自家消費(販売していない)	18	85.7%
販売している	2	9.5%
無回答	1	4.8%



(1枝)「耕作していない(遊休農地である)」を選ばれた方にお聞きます。
遊休農地の面積、遊休化している理由は何ですか。

【遊休農地の面積(自由記述)】

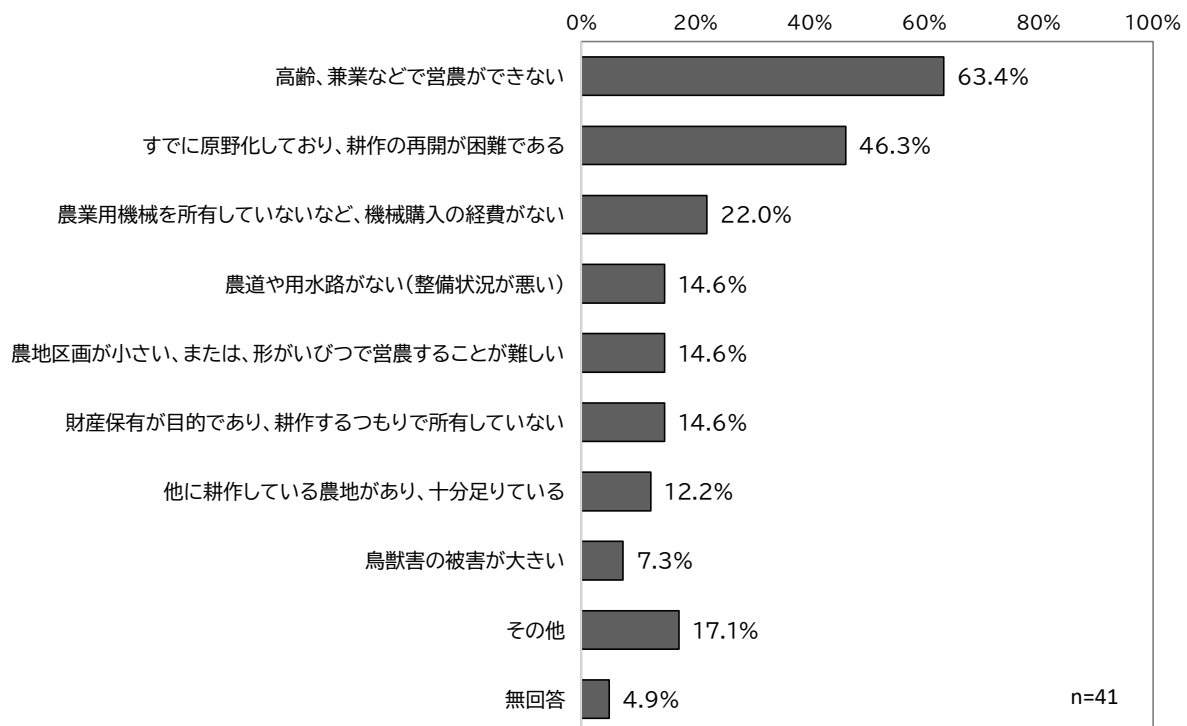
○遊休地の合計面積は「1,811.6a」で、最小面積は「2.7a」、最大面積は「1,103.0a」、平均は「53.3a」である

遊休農地	面積
回答者合計面積	1,811.6a
最小値	2.7a
最大値	1,103.0a
平均値	53.3a

【遊休化している理由(該当する項目すべてに○)】

○遊休化している理由について、「高齢、兼業などで営農ができない」が63.4%で最も高く、次いで「すでに原野化しており、耕作の再開が困難である」が46.3%、「農業用機械を所有していないなど、機械購入の経費がない」が22.0%である。

調査数(n=41)	回答数	割合
高齢、兼業などで営農ができない	26	63.4%
すでに原野化しており、耕作の再開が困難である	19	46.3%
農業用機械を所有していないなど、機械購入の経費がない	9	22.0%
農道や用水路がない(整備状況が悪い)	6	14.6%
農地区画が小さい、または、形がいびつで営農することが難しい	6	14.6%
財産保有が目的であり、耕作するつもりで所有していない	6	14.6%
他に耕作している農地があり、十分足りている	5	12.2%
鳥獣害の被害が大きい	3	7.3%
その他	7	17.1%
無回答	2	4.9%

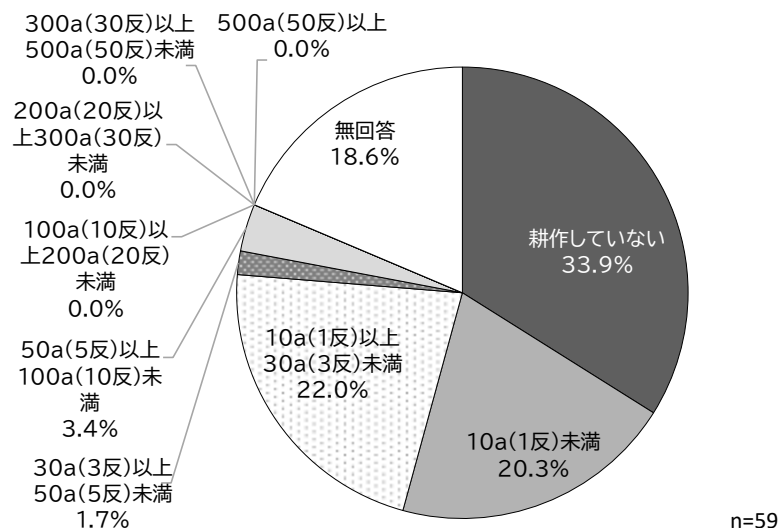


3. あなたが耕作している農地の状況についてお聞きます。

(1)あなたが耕作している農地面積を教えてください。(1つに○)

○耕作している農地面積について、「耕作していない」が 33.9%で最も高く、次いで「10a(1反)以上 30a(3反)未満」が 22.0%である。100a(10反)以上の回答はない。

調査数(n=59)	回答数	割合
耕作していない	20	33.9%
10a(1反)未満	12	20.3%
10a(1反)以上30a(3反)未満	13	22.0%
30a(3反)以上50a(5反)未満	1	1.7%
50a(5反)以上100a(10反)未満	2	3.4%
100a(10反)以上200a(20反)未満	—	—
200a(20反)以上300a(30反)未満	—	—
300a(30反)以上500a(50反)未満	—	—
500a(50反)以上	—	—
無回答	11	18.6%



(2)あなたが栽培する農作物のうち、こだわりがあるもの、めずらしいもの、特徴的なものなどがあれば教えてください。(自由記述)

< 米類 >

No	農作物	こだわりや特徴・取組内容など
1	うるち米	はぜ掛け、天日干し
2	餅米	はぜ掛け、天日干し
3	稲作	—
4	黒米	—

< 野菜類 >

No	農作物	こだわりや特徴・取組内容など
1	トマト	複数種の栽培
2	ジャガイモ	複数種の栽培
3	サツマイモ	複数種の栽培
4	くわい	—

< 果物類 >

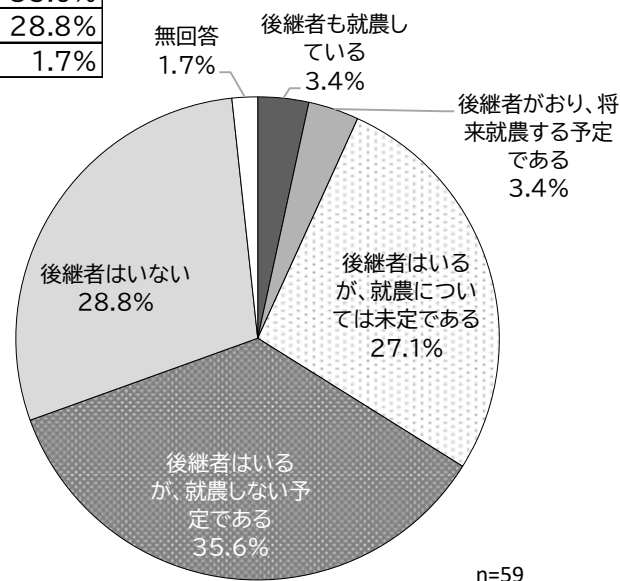
No	農作物	こだわりや特徴・取組内容など
1	ぶどう	—
2	イチジク	—

4. 後継者の状況、農地の所有意向等についてお聞きします。

(1)後継者の状況について教えてください。(1つに○)

○後継者状況について、「後継者はいるが、就農しない予定である」が35.6%で最も高く、次いで「後継者はいない」が28.8%である。全体の6割以上が将来の就農者が決まっていない。

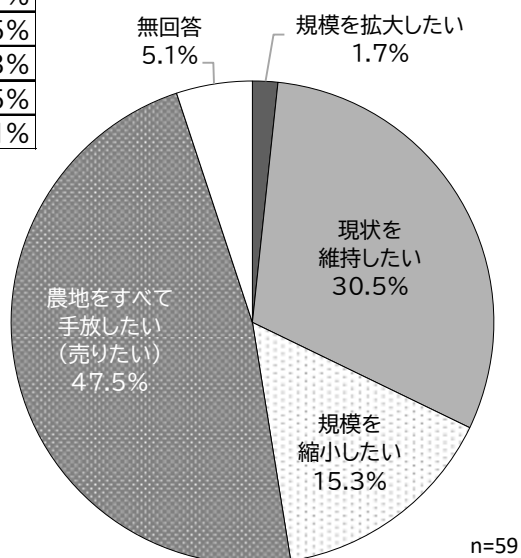
調査数(n=59)	回答数	割合
後継者も就農している	2	3.4%
後継者がおり、将来就農する予定である	2	3.4%
後継者はいるが、就農については未定である	16	27.1%
後継者はいるが、就農しない予定である	21	35.6%
後継者はいない	17	28.8%
無回答	1	1.7%



(2)あなたは、町内農地の流動化や集積化に向けて、概ね5年先の農業経営について、農地利用の規模をどのようにお考えですか。(1つに○)

○概ね5年先の農地利用の規模について、「農地をすべて手放したい(売りたい)」が47.5%で最も高く、次いで「現状を維持したい」が30.5%である。全体の約6割が縮小もしくは手放すことを検討している。

調査数(n=59)	回答数	割合
規模を拡大したい	1	1.7%
現状を維持したい	18	30.5%
規模を縮小したい	9	15.3%
農地をすべて手放したい(売りたい)	28	47.5%
無回答	3	5.1%



(2枝)「規模を縮小したい」・「農地をすべて手放したい(売りたい)」を選ばれた方にお聞きます。
農業経営のために規模拡大したい農家や、活用したい農家がいれば、条件次第ではありますが、あなたの農地を貸したり、売ったりすることはできますか。(1つに○*)

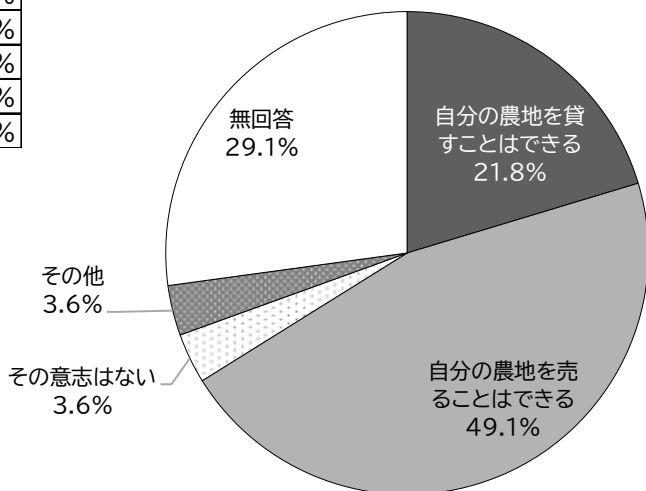
※:複数回答者が多かったため、複数回答で処理しています

○農地の貸し出しや売却意向について、「自分の農地を売ることはできる」が49.1%で最も高く、次いで「自分の農地を貸すことはできる」が21.8%である。(※無回答除く)

調査数(n=55)	回答数	割合
自分の農地を貸すことはできる	12	21.8%
自分の農地を売ることはできる	27	49.1%
その意志はない	2	3.6%
その他	2	3.6%
無回答	16	29.1%

<その他回答/2件>

No	意見
1	元気であれば、健康のために少しでも農業をやっていたい
2	その時その時の世の流れによる

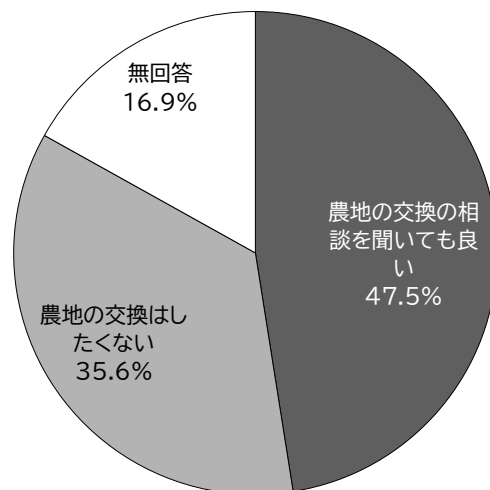


n=55

(3)例えば、地域内の農地を集約化(※)する場合に、耕作されている農地を地域内の別の農地と交換することのご相談をさせていただくことが可能かどうか、教えてください(1つに○)

○所有農地の交換関する意向について、「農地の交換の相談を聞いても良い」が47.5%で最も高く、「農地の交換はしたくない」が35.6%である。

調査数(n=59)	回答数	割合
農地の交換の相談を聞いても良い	28	47.5%
農地の交換はしたくない	21	35.6%
無回答	10	16.9%

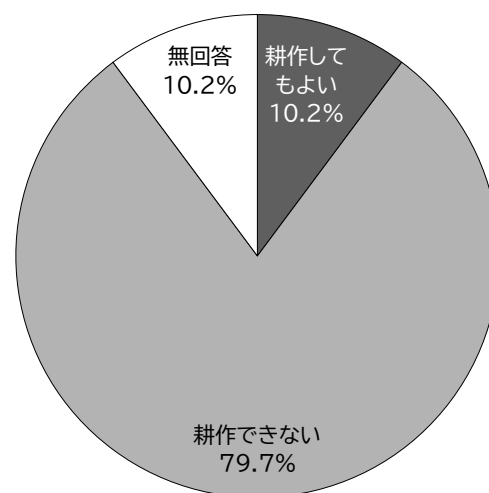


n=59

(4)周辺の農地(一定の条件が合う農地)が耕作放棄地となり、耕作の依頼があった場合に、その農地を借りて耕作することはできますか。(1つに○)

○耕作依頼の対応について、「耕作できない」が 79.7%で最も高い。

調査数(n=59)	回答数	割合
耕作してもよい	6	10.2%
耕作できない	47	79.7%
無回答	6	10.2%



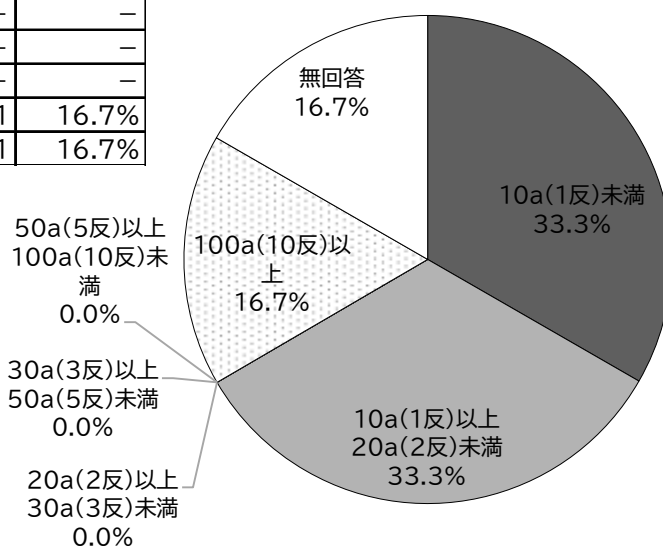
n=59

(4枝)「耕作しても良い」を選ばれた方にお聞きします。

どのくらいまでであれば耕作の依頼を受けることが可能ですか。(1つに○)

○依頼対応可能な耕作面積について、「10a(1反)未満」と「10a(1反)以上 20a(2反)未満」がそれぞれ 33.3%で最も高い。

調査数(n=6)	回答数	割合
10a(1反)未満	2	33.3%
10a(1反)以上20a(2反)未満	2	33.3%
20a(2反)以上30a(3反)未満	—	—
30a(3反)以上50a(5反)未満	—	—
50a(5反)以上100a(10反)未満	—	—
100a(10反)以上	1	16.7%
無回答	1	16.7%



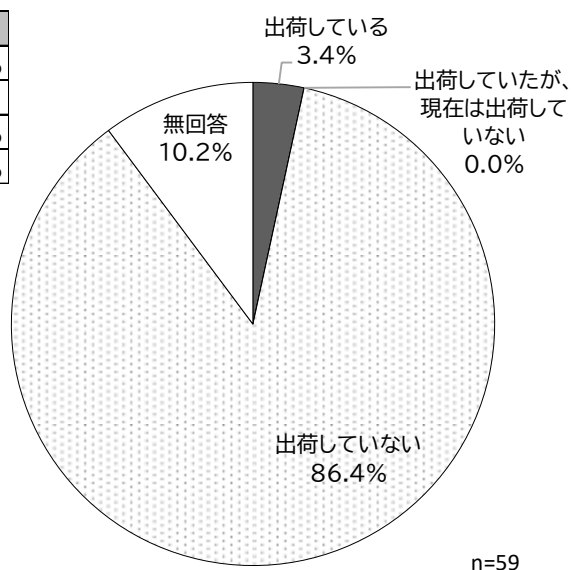
n=6

5. 岬町の農業振興に向けた参画意向等についてお聞きます。

(1)あなたは、道の駅みさき夢灯台に出荷していますか。(1つに○)

○道の駅への出荷について、「出荷していない」が86.4%で最も高く、次いで「出荷している」が3.4%である。(※無回答除く)

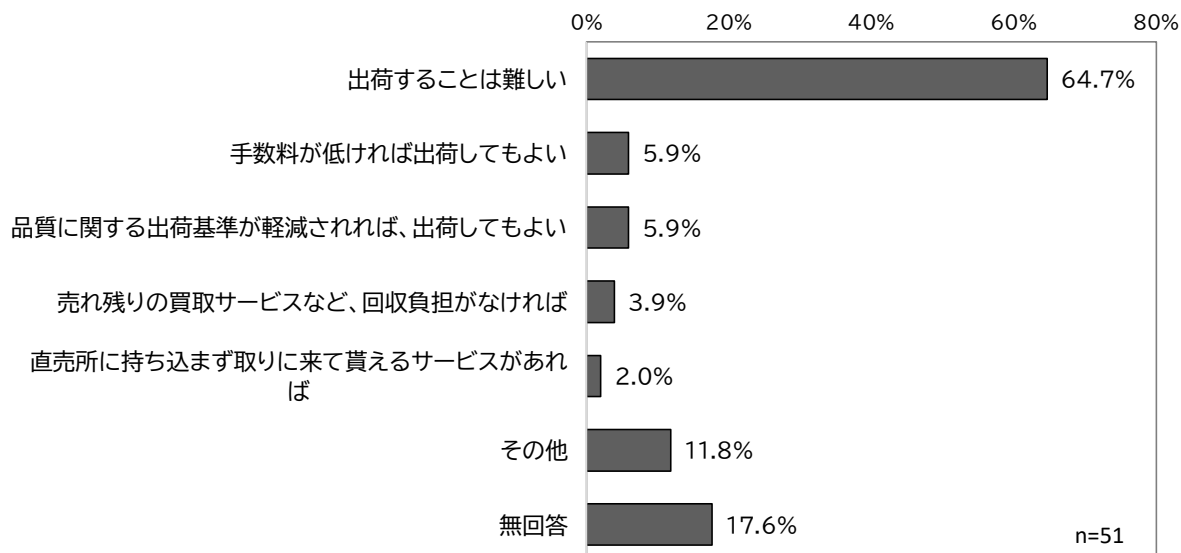
調査数(n=59)	回答数	割合
出荷している	2	3.4%
出荷していたが、現在は出荷していない	—	—
出荷していない	51	86.4%
無回答	6	10.2%



(1枝)「出荷していたが、現在は出荷していない」、「出荷していない」を選ばれた方にお聞きます。
出荷しても良いと思う条件を教えてください。(該当する項目すべてに○)

○出荷を検討する条件について、「出荷することは難しい」が64.7%で最も高く、次いで「手数料が低ければ出荷してもよい」と「品質に関する出荷基準が軽減されれば、出荷してもよい」がそれぞれ5.9%である。(※その他・無回答除く)

調査数(n=51)	回答数	割合
出荷することは難しい	33	64.7%
手数料が低ければ出荷してもよい	3	5.9%
品質に関する出荷基準が軽減されれば、出荷してもよい	3	5.9%
売れ残りの買取サービスなど、回収負担がなければ	2	3.9%
直売所に持ち込まず取りに来て貰えるサービスがあれば	1	2.0%
その他	6	11.8%
無回答	9	17.6%



<その他回答／6件>

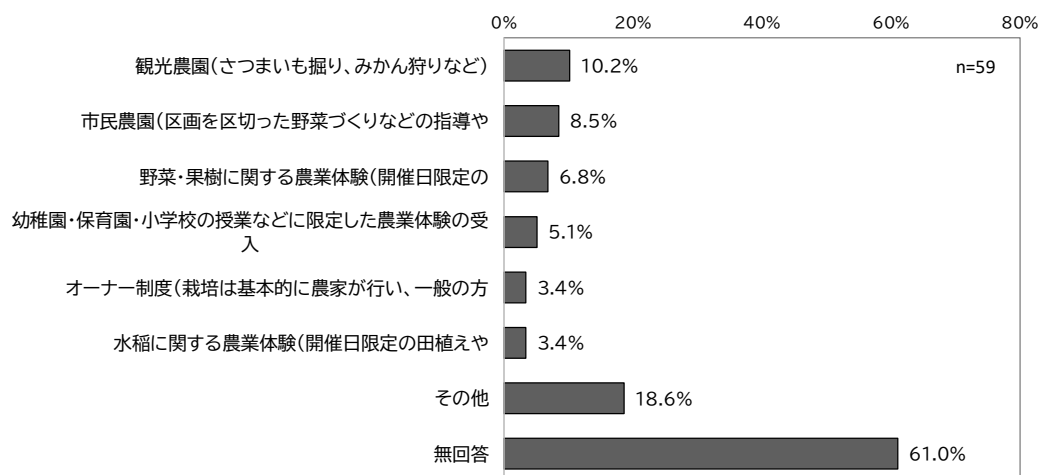
No	意見
1	減農薬・無農薬に対してのアピールを行い、これらの価格を上げて欲しい
2	何も作物を作ることができない
3	耕作していない（他、1件）
4	親の代から休耕田を相続した状態で、草刈りもままならない状態なので、耕作できる人によって貰うのは良いことと思う。理想は、有機米や有機農法で、次世代の子どもさんや小学生に体験して貰える場に出来れば素晴らしいと思うが、60代で未経験なので、叶わない夢である。岬町、農協？などのお力で、全体を体験農園に整備するというようなことは不可能でしょうか？
5	早朝より夜遅くまで仕事している。現在出荷にたずさわる事は不可能(息子)

(2)あなたは、下記のような一般の方を対象にした農業体験について、関心があり、受け入れてみたいと思いますか。(該当する項目すべてに○)

○関心がある農業体験について、「観光農園」が10.2%で最も高く、次いで「市民農園」が8.5%である。
(※その他・無回答除く)

調査数(n=59)	回答数	割合
観光農園	6	10.2%
市民農園	5	8.5%
野菜・果樹に関する農業体験	4	6.8%
幼稚園・保育園・小学校の授業などに限定した農業体験の受入	3	5.1%
オーナー制度	2	3.4%
水稲に関する農業体験	2	3.4%
その他	11	18.6%
無回答	36	61.0%

※選択肢のかっこ内の説明書き省略



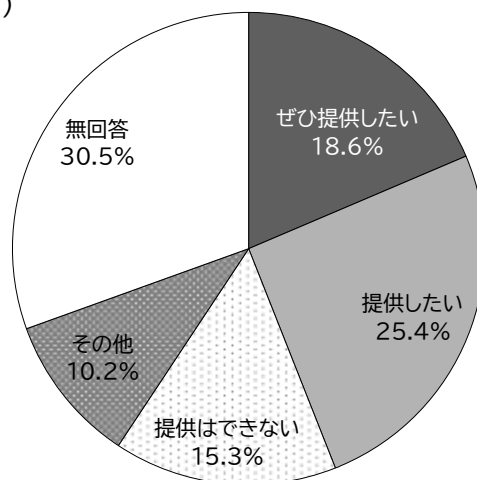
<その他回答／11件>

No	意見
1	関心がない（他、4件）
2	年齢のため
3	受け入れたいとは思わない
4	売却しか考えていない
5	すでに提供している
6	85歳を過ぎた現在、農業に対するこれからの事は考えことができません。
7	前頁に書いたように、耕作をしていないので、受け入れる立場ではないですが、「水稲の農業体験」、「野菜・果樹の農業体験」、「幼稚園、保育園、小学校」などができると良いと思います。

(3)あなたは、前記(2)で示した農業体験について、企画運営は別の団体が行い、あなたの農地を提供いただき(お借りして)実施することはできますか。(1つに○)

○農地提供の可能性について、「提供できない」が 25.4%で最も高く、次いで「ぜひ提供したい」が 18.6%、「提供できない」が 15.3%である。(※無回答を除く)

調査数(n=59)	回答数	割合
ぜひ提供したい	11	18.6%
提供したい	15	25.4%
提供はできない	9	15.3%
その他	6	10.2%
無回答	18	30.5%



<その他回答／6件>

n=59

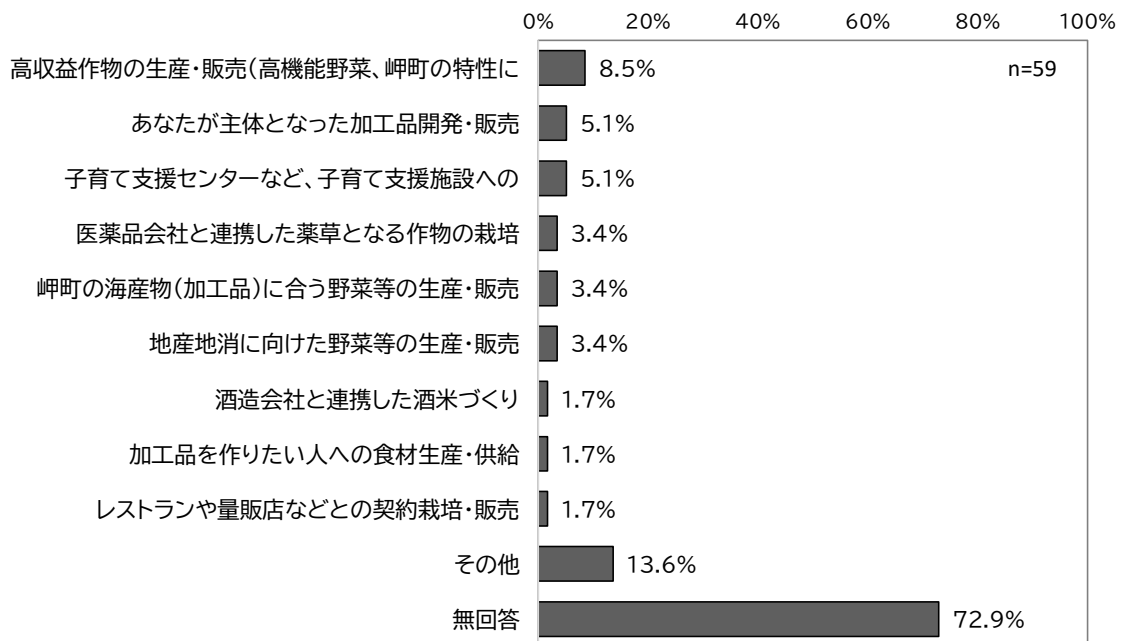
No	意見
1	条件によっては提供しても良い
2	事前に条件を話し合わないといずれか決めかねる
3	すでに提供している
4	自作をしていない
5	興味がない
6	農地は提供することができるが、管理は出来ない

(4)あなたは、下記のような新しい販路や取組について、関心があり、やってみたいと思いますか。(該当する項目すべてに○)

○新販路と取組への関心について、「高収益作物の生産販売」が 8.5%で最も高く、次いで、「あなたが主体となった加工品開発」、「子育て支援施設への提供」がそれぞれ 5.1%である。(※その他・無回答を除く)

調査数(n=59)	回答数	割合
高収益作物の生産・販売	5	8.5%
あなたが主体となった加工品開発・販売	3	5.1%
子育て支援センターなど、子育て支援施設への農産物の提供	3	5.1%
医薬品会社と連携した薬草となる作物の栽培	2	3.4%
岬町の海産物(加工品)に合う野菜等の生産・販売	2	3.4%
地産地消に向けた野菜等の生産・販売	2	3.4%
酒造会社と連携した酒米づくり	1	1.7%
加工品を作りたい人への食材生産・供給	1	1.7%
レストランや量販店などとの契約栽培・販売	1	1.7%
その他	8	13.6%
無回答	43	72.9%

※選択肢のかっこ内の説明書き省略



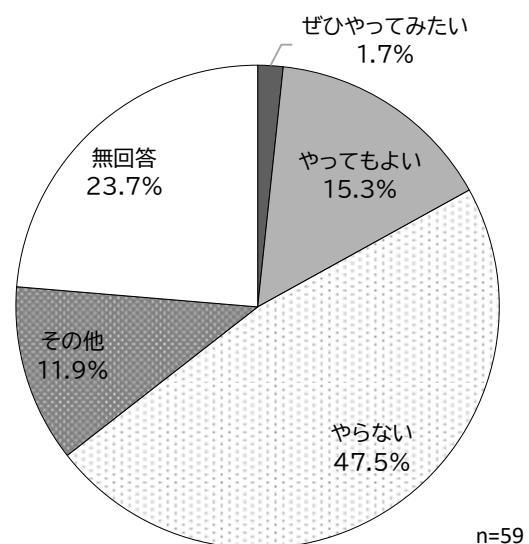
<その他回答／8件>

No	意見
1	関心がない（他、2件）
2	特にな（他、2件）
3	自家にて消費
4	条件次第

(5)岬町の新しい特産品づくりとして、町内農業者がみんなで同じ農作物をつくり、町をあげて PR をする取組を行う場合、あなたはやってみたいと思いますか。(1つに○)

○町内で同じ農作物の作成や町をあげて PR することの意向について、「やらない」が47.5%で最も高い。

調査数(n=59)	回答数	割合
ぜひやってみたい	1	1.7%
やってもよい	9	15.3%
やらない	28	47.5%
その他	7	11.9%
無回答	14	23.7%



<その他回答／7件>

No	意見
1	高齢のため新たな耕作は難しい（他、3件）
2	市内在住なので興味はあるが出来ない
3	購買者としては有機農業、無農薬作物に興味があります。
4	機械の購入等で借金してまでやりたいとは思わない

(6) 今後、あなたが耕作してみたい農作物があれば、教えてください。(自由記述)

<自由回答／7件>

No	意見
1	高付加価値果樹、高付加価値野菜の栽培
2	西洋野菜
3	購買者としては有機農業、無農薬作物に興味があります。
4	ビワ、栗、桃
5	くわい
6	パパイヤ、パイナップル、アボカド、めずらしい果樹
7	特になし

(7) その他、岬町の農業振興に向けたアイデアや意見などがありましたら、お聞かせください。(自由記述)

<自由回答／8件>

No	意見
1	遊休放置の草刈り強化 行政による管理指導
2	岬町ブランドの果樹や野菜の育成 ・就労者への教育実施と農業認証(定)取得の推進(町をあげて実施)
3	購買者としての意見ですが、食物は生きる基本です。形は悪くても、農薬のかかっていない又は土地にやさしい有機野菜が、近くで買えたら幸せです。日々の営みに寄り添う、身体にやさしい農業の振興をぜひ。四国では高知県の「高生連」様が取り組んでいるような。
4	町営農園等の活用の検討
5	JA、町等が遊休農地を一括借り上げし、耕作希望者を募り、岬町ブランドの農産物を作り、道の駅等で販売する
6	観光農園が良さそう
7	体調が悪いので耕作はできませんが、まわりの計画で有効利用されるのならば協力させていただきます。
8	田植えから刈り取りまでの水田の水の管理について、池の管理とともに地主が行かなくてもよい方法を考えて欲しいものです。

町内団体等への追加ヒアリング調査結果

1. 概要

(仮称) みさき農業公園基本計画の進め方を検討する基礎データの収集のため、農業公園の対象地に知見を有する事業者として、JA 大阪泉州へのヒアリング調査を実施した（2024 年 11 月実施）。

2. ヒアリング対象一覧

ヒアリング対象	主な事業内容・特徴
JA 大阪泉州	農業が有するあらゆる多面的機能を最大限に発揮し、「農」のある快適な住みよい地域社会を目指す。環境・自然・文化などあらゆることで、地域社会に貢献していく。JA 大阪泉州は地域農業を守り育てていく。農産物直売所「こーたり〜な」を運営。 引用：JA 大阪泉州ホームページより

3. ヒアリング調査の結果概要

項目	回答（ご意見）
1 JA 大阪泉州から見た岬町内の農業環境	・ 岬町内の農業者の多くは自家消費用や小遣い稼ぎ程度で栽培されている。「農地を荒らさないために栽培している」という人が多い。 ・ 「農業を継ごう」と考えている人はあまりいない印象である。I ターンなどもあまり聞かない。農業の現状維持が難しくなっており、<u>外から人を呼んでくる取組は必要</u>であるように思う。 ・ 周辺市町と比較すると、岬町には<u>農業以外にも漁業という選択肢があるため、農業だけにこだわらない傾向</u>がある。農業と漁業を兼業する人もいる。
2 (仮称) みさき農業公園について	・ 「<u>地域でどの品目をモデルにするか</u>」は、各市町村で定めることが多く、JA 大阪泉州はそのアドバイスをすることが多い。 ・ 農家一人ひとりが個人事業主であるため、「<u>地域全体でこの品目を進めよう</u>」とコントロールすることが難しい。自身の農業で精一杯な農家が多い。岬町モデルを考えるにおいても、「<u>誰が主導していくか</u>」が難しい課題である。 ・ 新規就農者の相談で、「<u>イチジク</u>」を栽培したいという人がいた。ただし、成熟した木を育てるにも3～5年必要であり、イニシャルコストを回収し、計画を軌道に乗せるまでが難しい。 ・ 新規就農者を増やし広げていく1つのアイデアとして、<u>周辺地域の専業農家ノウハウを持ち、拡大意向がある方に来ていただければどうか</u>（岬町で展開していただく）。
3 (仮称) みさ	・ JA 大阪泉州は、令和9年に広域合併による再編成を行う計画がある。その

項目	回答（ご意見）
き 農 業 公 園 と JA 大阪泉州 での取組の 協力体制に ついて	ため、現在は新規事業を展開する可能性は高くない。 ・「農業公園に体験農園を作る」など、JA 大阪泉州として協力や連携させてもらえるのであれば嬉しい。 ・岬町内には、みかんを作れる人も多く、他にぶどうやスイカ、ブルーベリーも頑張っていることより、<u>アグリパーク竜王（滋賀県竜王町）のような果樹と体験農園を中心とした観光型の農業公園</u>ができれば面白いのではないかと。 ・JA 内の農業普及指導員も減っているため、専門的なアドバイスができる環境が整いにくくなっている。新規就農者からの相談は、その地域内の先輩農家に頼る必要があるが、先輩農家も感覚で農業をしているケースが多く、人に教えるようなノウハウを持っている農家は少ない。例えば、<u>スマート農業などによってデータを示しながら指導できる環境があればいいが</u>、岬町内でスマート農業を進めるだけの農地等は限られるだろう。

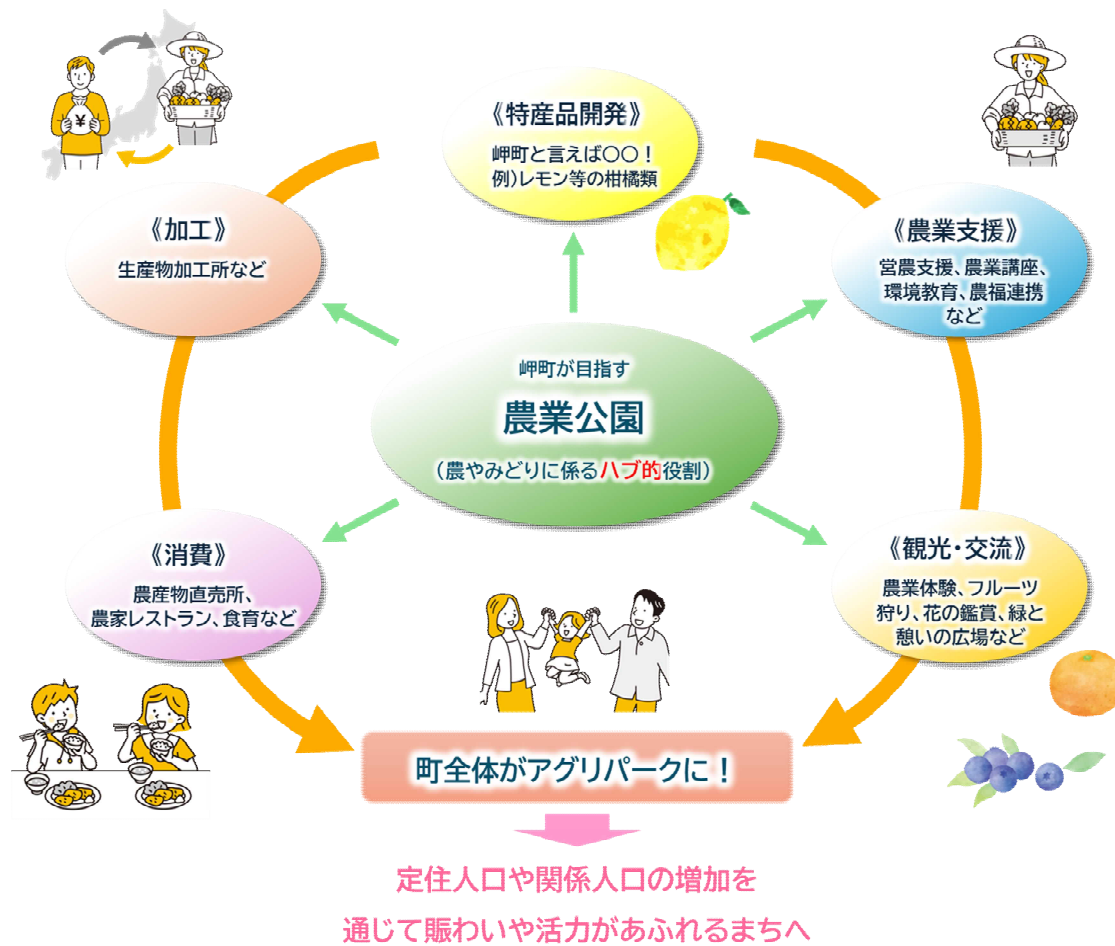
(仮称) みさき農業公園の基本理念・展開イメージ、実現に向けたモデルプロジェクト（案）

1. 基本理念（整備に際してのコンセプト）

※基本理念として記載する内容のポイントは以下のとおり

- ① 岬町が有する自然環境を活かした農やみどりに親しむことができる拠点づくり（≡農業公園）
- ② 農業公園を核とした町が抱える農（業）にまつわる課題の解決
- ③ 農業公園が「ハブ的役割」を担う、町全体のアグリパーク化
- ④ 行政（町）、事業者（民間）、町民の連携による事業の推進
- ⑤ 本町の定住人口や関係人口の増加、賑わいや活力の増進

岬町が目指す農業公園の姿

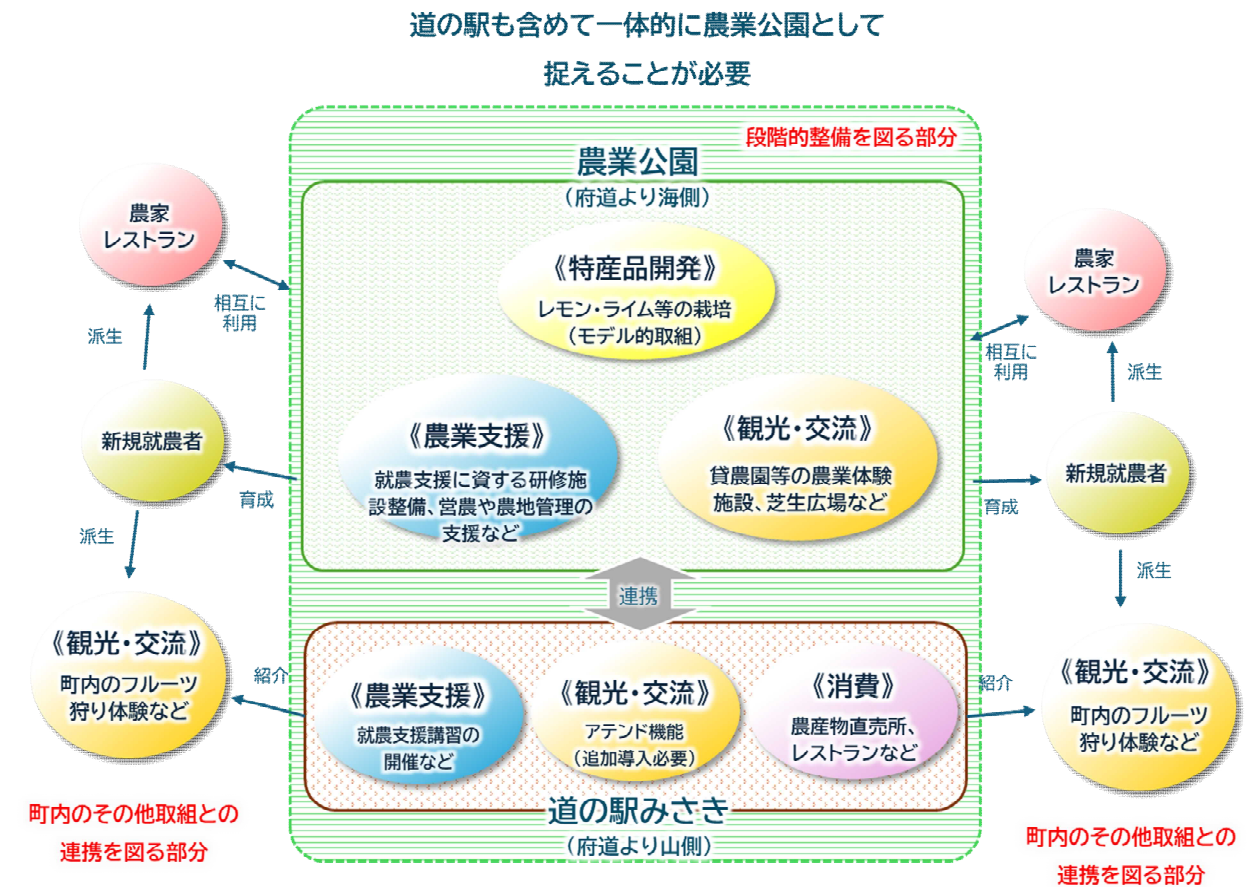


《参考》

- ①について → 泉州野菜を楽しむことが出来る農家レストランや果物狩りスペース、体験農園エリアの他、芝生広場、ドッグランなど
- ②について → 担い手育成、新規就農者支援につながる施設の整備、岬町の特産品開発など
- ③について → 既存の取組（ブルーベリーなど）の応援、新たな農業振興策の検討など
- ➡ これら①～③に関連する施設整備や取組等について優先順位をつけながら、展開イメージを具体的に推進していく必要がある。➡ **身の丈に応じた機能導入／施設整備を行っていくことが重要。**

2. 整備機能／導入機能

- ・大別して、左図にある「特産品開発」「農業支援」「観光・交流」「加工」「消費」の5つの機能を想定
- ・ただし、コスト面や運用面等を考慮すると最初からすべての機能を整備することは困難であることから、“段階的な整備”と“町内のその他取組との連携”により目指す姿を実現するアプローチをとる



■段階的な整備

- ・対象地の南側に位置する「道の駅みさき」も含む一体的な整備とする。
- ・「道の駅みさき」では、既存の直売所やレストラン機能の他、「観光・交流」機能（特にアテンド機能）の充実・補強を図る。
- ・府道より海側の対象地においては、コアとなる機能（ファーストステップとして必要最低限）の整備を優先する。➡ここでは「農業支援」「観光・交流」「特産品開発」を想定

■町内のその他取組（≡モデルプロジェクト）

- ・農業公園として整備する機能だけでは不足する領域においては、既存の取組や今後、政策的に展開を図っていく取組^{注1)}と連携を図ることで、農業公園としての足らずの部分を補完する。

注1) 先導プロジェクトに基づく各種取組を指す（裏面参照）

3.（仮称）みさき農業公園の実現に向けた取組（モデルプロジェクト（案））

（１）農業公園の整備に向けた取組（モデルプロジェクト（案））の位置づけ

岬町では、2020年3月に「みさき農とみどりの活性化構想」を策定しています。農業公園の整備は、「みさき農とみどりの活性化構想」における「**先導プロジェクト⑦ 広域からの集客をねらう農とみどりを活かした活性化拠点プロジェクト**」に基づく事業です。

今回、農業公園（≡活性化拠点）の整備だけでは不足する機能等を補う取組、今後政策的に展開を図る必要がある取組を「モデルプロジェクト」と位置づけます。農業公園の整備により「器（場所）」を整え、関連する取組を進めることで「中身」を充実させていきます。

みさき農とみどりの活性化構想（2020年（令和2年）3月策定）

■基本的考え方

- （1）社会潮流をはじめ人々の価値観やライフスタイルの変化に対応し、その先駆けとなる
- （2）大阪都市部や閑閑へのアクセス性や豊かな自然環境（山、里、海）を有する好立地を最大限に活かす
- （3）本町を取り巻く状況の変化やそれに伴う問題・課題に対応
- （4）地域力の向上を基本に、内部の力と外部の力をうまく連携させる

■コンセプト・農とみどりの活性化戦略



■先導プロジェクト

- ①岬のやま×さと×うみの「おいしい食」づくりプロジェクト
- ②マイ・グッド・プレイス！岬のやま・さと・うみを守るプロジェクト（企業参画）
- ③歩く・走る！健康みさき巡りプロジェクト
- ④うわ～きれい！うっとりする岬の風景づくりプロジェクト
- ⑤岬町のシンボルになるフルーツが実るまちづくりプロジェクト
- ⑥やま・さと・うみ全部ある！ホンモノ魅力体験ツーリズムプロジェクト
- ⑦広域からの集客をねらう農とみどりを活かした活性化拠点プロジェクト**

「モデルプロジェクト」は、活性化構想で掲げた先導プロジェクトも踏まえて設定

（仮称）みさき農業公園基本計画

- 基本理念（整備コンセプト）
- 整備機能
- 整備に向けた取組（モデルプロジェクト）

モデルプロジェクト①

モデルプロジェクト②

.....

モデルプロジェクト●

（２）農業公園の実現に向けた取組（モデルプロジェクト（案））

■モデルプロジェクト① 趣味から就農まで、ニーズにあったアグリライフが実現できるプロジェクト

- ・多様な農業の担い手づくりの場を創出するため、「区画割りのみ」、「指導者がいる」、「就農をめざす」、「オーナー型」など、多様なニーズにあった農園を開設（あるいは農業塾を開講）します。
 - ・農園はモデル的に開設し、試行しながら拡大します。
- 【参考事例】神奈川県秦野市（はだの都市農業支援センター） 等

■モデルプロジェクト② 観光農園&体験プログラムを増やしていくプロジェクト

- ・対象地は道の駅から近く、道の駅利用者が観光農園を訪ねたり、さつまいもや野菜など収穫体験プログラム（イベント）に参加することも考えられます。
 - ・このような取組を展開したい新規就農者や既存農業者を募集し栽培を行うとともに、事業者や市民団体等とも連携・試行しながら進めることにより、**対象地を中心に「年間を通してイベントや体験が行われている岬町」をめざします。**
 - ・取組の例：観光農園の開設を目的とした農業者の募集（企業参入含む）、野菜等の収穫体験イベントの企画
- 【参考事例】滋賀県竜王町（アグリパーク竜王）、奈良県明日香村 など

■モデルプロジェクト③ 未来の岬町農業を牽引する新規就農者の確保・育成

- ・担い手の高齢化や不足は町全体の課題であり、新たな担い手を確保することが重要です。
 - ・**実現可能な農業経営モデル**とともに、就農に向けた研修機能を作り、座学や先輩農家からの実地研修などにより、**新規就農者の確保・育成**を進めます。
 - ・品目の例：ブルーベリー、いちご、水なす+きくな、有機野菜 など
 - ・取組の例：新規就農者向けのアカデミーの設置、研修施設の設置、先輩農家等との連携 など
- 【参考事例】大阪府（大阪府大阪産スタートアカデミー） 等

■モデルプロジェクト④ 岬町のシンボルになるフルーツが実るまちづくりプロジェクト

- ※「みさき農とみどりの活性化構想」の先導プロジェクト⑤の推進と同様
- ・「**岬町といえばこのフルーツ！**」といえる農産物を町内の農業者等とともに育て、新たな風景づくりや新しい商品づくりに活かし、**町内農地の活用や特産品づくりの気運を高めます。**
 - ・品目の例：ブルーベリー、レモン、ライム、アーモンド、桑 等
 - ・取組の例：品目の選定、苗の配布（助成）、加工流通・販売への展開、体験イベントの実施 等

■モデルプロジェクト⑤ 対象地で試して学べる！農業生産&農地管理プロジェクト

- ・町内の農地は、耕作放棄地が増加傾向にあり、**営農に関する取組だけでなく、草刈りや鳥獣害対策などの取組や体制づくりが求められています。**対象地内（一部、周辺も含む）の農地における草刈り実証等の試行を通じて、**町内農業者にとって学びや活用できる場を創出**します。
- ・取組の例：遊休農地での草刈り実証（栽培できる状態に戻す）、農業の使い方や鳥獣害対策の講習会 等

第1回委員会の内容に関連する参考事例

1. 神奈川県秦野市（はだの都市農業支援センター）

- 神奈川県秦野市では、JAはだの・秦野市・農業委員会により「はだの都市農業支援センター」を平成17年に設置し、農業支援体制の確立を図っている。
- 営農振興、担い手育成、市民農業の参画など、多様な担い手づくりに向けた取組などを展開している。

①市民農業塾



多様な農業の担い手づくりの場として、新規就農など農業参画を希望する市民を対象に令和6年度『はだの市民農業塾』の受講生を募集します。
コースは3コースあり、自分の目的に応じたコースの選択ができます。

	新規就農コース	基礎セミナーコース	農産加工 セミナーコース
対象者	・新たに秦野市での農業参入を希望する方（年間50万円以上の売り上げ目標） ・定年帰農により、秦野市で農業を始める後継者	市民農園等の利用者及び利用を希望する方	市内で農産加工品の製造販売をしたい方又はしている方
内 容	就農に必要な知識・技術の習得 露地野菜の慣行栽培研修	座学（講義）を中心とした基礎的な学習	農産加工品の製造販売に必要な知識の習得
受講場所	表丹沢郷山下ふれあい農園内	JAはだの本所	JAはだの本所
募集人数	5名	15名	12名
受講料 (年間)	20,000円 (別途保険料有)	10,000円	3,000円
期 間	3月から1月（2年間） 1年目：週3日 農家研修（40日以上） 2年目：講義 月1～2日 農場実習 通年 農家研修（40日以上）	3月から12月の土曜日 全12回を予定	4月から9月の間で、 全8回を予定
申し込み	下記説明会時に申し込み ※ 面接による選考があります 受付は1月9日（火）～31日（水）	電話での先着順受付 受付は1月9日（火）～2月9日（金）	

【新規就農コース説明会・面接】

1 日 時：令和6年2月2日（金）午前9時から
令和6年2月3日（土）午前11時から

2 会 場：JAはだの本所 農業団地センター3階 OA 会議室（秦野市平沢477）

3 対 象 者：新たに農業参入を希望する方（原則として市内在住の方）

②ふれあい農園（農園数2）

水、農具、トイレ等が利用できるのも、手ぶらで気軽に野菜づくりをしたい方、遠方にお住まいの方などに好評です。毎年2月中旬頃に利用募集をしています。

●東田原ふれあい農園

- ・総画数：121 区画
- ・利用料：年額 16,500 円～
（1㎡あたり 550 円、1 区画は 3㎡）
- ・利用区画（面積）：1 区画（30㎡）以上
- ・利用申し込み：農園管理者代表（大津）
- ・申し込み時間：午前 9 時から午後 8 時まで
- ・利用施設：管理棟（トイレ、休憩室、シャワー、更衣室、調理室）、農機具（くわ、シャベル、一輪車、水用ポリタンク等）、駐車場 ※すべて無料
- ・利用期間：毎年 4 月から 1 年間（継続利用可・空きがあれば年度途中からの利用可）



●表丹沢堀山下ふれあい農園

- ・総画数：319 区画
- ・利用料：年額 18,000 円～（1㎡あたり 600 円、1 区画は 30～60㎡）
- ・利用区画（面積）：1 区画 30㎡～60㎡（5㎡刻み）
- ・利用期間：毎年 4 月から 1 年間（継続利用可）
- ・申し込み：表丹沢堀山下ふれあい農園組合
- ・利用施設：管理棟（トイレ、休憩室、更衣室、シャワー室）、農機具（くわ、シャベル、一輪車、水用ポリタンク等）、駐車場 ※すべて無料

③親子地場産野菜教室（農園数1）

農家などから直接指導を受けながら、親子で1年を通じ野菜を育てたり、育てた野菜を料理したりして、「地域の農」や「食」の大切さを学びませんか。

- ・内容：1 年間におよそ 15 回開催される教室を通して、苗の植え付け、野菜の収穫、カレー作り、料理作り、種まきなどを行います。
- ・時間：9 時 00 分～11 時 00 分（変動あり）
- ・場所：JA はだの東支所裏の畑
- ・参加費：1 家族 12,000 円（年間）
- ・募集：市内在住の家族 20 組（先着順）
- ・主催：親子地場産野菜教室実行委員会

※野菜の収穫体験や料理教室を通して食農の推進のために活動している団体



④さわやか農園（農園数 42）

コミュニティ活動の健全な育成を一環として、消費者と農業者等の地域住民の連帯感を助長するための農園です。駐車場、トイレ、農機具はありません。

一般名称	開設者	総面積	区画数	利用料等（区画／年）	対象者
鶴巻さわやか農園	JA はだの	2,226	16	6,000 円／100 m ²	一般
鶴巻第 2 さわやか農園	JA はだの	1,222	10	6,000 円／100 m ²	一般
鶴巻第 3 さわやか農園	JA はだの	400	3	4,800 円／80 m ²	一般
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
森戸第 3 さわやか農園	JA はだの	1,861	14	6,000 円／100 m ²	一般
八沢さわやか農園	JA はだの	4,480	26	6,000 円／100 m ²	一般

⑤コミュニティ農園（農園数 2）

コミュニティ活動の健全な育成を一環として、消費者と農業者等の地域住民の連帯感を助長するための農園です。駐車場、トイレ、農機具はございません。

名称	開設者	総面積	区画数	利用料等（区画／年）	対象者
ひばりヶ丘農園	秦野市	669	30	3,000 円	一般
堀山下農園	秦野市	2,055	85	3,000 円	一般

⑥はだの農業満喫 CLUB 秦野市の体験型農業）

はだの農業満喫 CLUB とは、神奈川県秦野市の農業に関するイベントの情報をいち早く入手できる会員のことです。登録した方には、丹沢の山々に囲まれる豊かな自然の中で行われる「農園オーナー制度」や「収穫体験」の開催についての案内を随時お届けします。

●農園オーナー制度

畑の中の区画を割り当てられ、種まきと収穫が楽しめる制度です。中間の生育管理はプロの農家さんにお任せしますので、農業に全く触れたことがない方でも安心してご利用いただけます。

※落花生農園、サツマイモ農園、ジャガイモ農園、タマネギ農園



●収穫体験

食べごろになった野菜や果物を畑から収穫し、お持ち帰りいただくイベントです。プロの農家の方が収穫方法をやさしく教えてくださいますので、農業経験のない方でも気軽にご参加いただけます。

※ジャガイモ、デコポン、湘南ゴールド、キウイフルーツ



参考：秦野市

2. 滋賀県竜王町（道の駅 アグリパーク竜王 × 周辺農業者）

○道の駅「アグリパーク竜王」では、周辺の観光農園（30以上の農家）と連携し、道の駅が広報、予約受付（精算業務）を行い、周辺農家が受入れを行っている。

○「1年を通して旬のフルーツ収穫が体験できる」をPRしている。



○アグリパーク竜王は平成27年(2015年)、かがみの里は平成15年(2003年)に道の駅に登録され、2つの道の駅は、平成28年(2016年)に「重点道の駅」に認定されています。

○アグリパーク竜王の生産出荷組合（農事組合法人 山之上生産組合）では、梨、ぶどう、桃、芋などの部会があり、生産や販売、体験事業等に関する検討や共同した取組が行われています。

図表11 道の駅の概要

	アグリパーク竜王	かがみの里
オープン年	平成8年(1996年) ※農業公園としてオープン	平成15年(2003年)
年間売上額 (令和3年(2021年))	約3.3億円 ※売上のピークは2021年	約3.2億円 ※売上のピークは2016年(約3.6億円)
農産物(直売)の売上額	約1.3億円 ※売上のピークは2021年	約1.0億円 ※売上のピークは2016年(約1.2億円)
(出荷組合の売上割合)	(約88%)	(約79%)
果樹狩りの売上額 (野菜・花含む)	約0.5億円 ※売上のピークは2019年(0.6億円)	—
年間来客数 (令和3年(2021年))	約55.6万人	約49.2万人
果樹狩り入園者数 (野菜・花含む)	約3.1万人 ※ピークは平成26年(2014年)(約5.2万人)	—
生産出荷組合員数	140人	165人

○果樹狩りでは、30以上の農園があり、年間を通じた体験が可能です。

○果樹狩りでは、6割が県外から来られており、半数近くの方がリピーターとなっています。

※道の駅 アグリパーク竜王が実施したアンケート結果より

図表12 [参考]果樹狩りの品目別の農園数・利用者数(アグリパーク竜王経由での利用)

品目	農園数	利用者数	備考	コロナ禍前 (令和元年(2019年))
いちご	—	8,023人	令和2年(2020年)12月～ 令和3年(2021年)5月	約12,000名
ぶどう	7	4,889人	令和3年(2021年)	約8,000名
なし	4	2,087人	令和3年(2021年)	約5,000名
かき	7	787人	令和3年(2021年)	約1,000名
さくらんぼ	4	7,884人	令和3年(2021年)	約11,000名
もも	3	6,286人	令和2年(2020年)	約6,000名
ブルーベリー	—	770人	令和2年(2020年)	約1,000名
さつまいも	6	2,168人	令和2年(2020年)	約9,000名
その他	—	1,154人	令和2年(2020年) とうもろこし、ラベンダー、じゃがいも、枝豆、コスモス	約1,000名

参考：竜王町農業振興ビジョン「基本構想」（2022年6月策定）

3. 奈良県明日香村（一般財団法人明日香村地域振興公社 × 村内農業者）

○明日香村では、公社（あすか夢耕社）がいちご狩りの募集受付を担い、村内 18 農園が体験受け入れを行っている。料金・サービス等は統一（30 分食べ放題）。



明日香村で いちご狩り
Asuka Strawberry picking Park

ビニールハウスで 雨でも安心!

立ったまま 高設栽培だから ラクラク収穫!

完全予約制 reservation required

30分間 食べ放題 All you can eat (For 30 minutes)

明日香村内 18 箇所で開催!

あすかいちご狩りパーク
2024年 1月6日土から 5月26日日まで

開催時間 10時～16時

開催日 1月31日まで/土・日・祝
2月1日以降/水・土・日・祝
※春休み期間（3月25日～4月5日）は毎日開催しています

場 所 奈良県高市郡明日香村
電車：近鉄吉野線飛鳥駅下車
車：奈良市内からは国道24号線を吉野方面へ南下 又は 京奈和自動車道より大和高田バイパス経由 大阪方面からは南奈高速道路国道169号線を南へ

※ トイレ設備はございません(村内各所の公衆トイレをご利用ください) ※雨天可 ※無料Pあり
There is no restroom.(in the village,there are public restrooms available.)

入園料 (税込)

	1/6～4/14	4/15～
大 人 (中学生以上)	2,000円	1,700円
小学生	1,600円	1,400円
幼 児 (3歳以上)	1,000円	900円
お持ち帰り (100g単位)	200円	150円

※20名以上の団体の場合は入園料が10%割引となります。

お問い合わせ
一般財団法人明日香村地域振興公社
あすかいちご狩りパーク
☎0744(54)1115
受付時間 8:30～17:00

QRコードから

お電話から

共催/ JAならけん明日香村地域農業支援センター

参考：一般財団法人明日香村地域振興公社

4. 大阪府大阪産（もん）スタートアカデミー

- 大阪府内では、新規就農者を育成するための「アカデミー」が多く開催されている。
※大阪府、市町や JA などが主催し実施（先輩農業者とも連携）

【実施例】

- 大阪府が実施
 - ・能勢町『有機農産物アカデミー（北部地域）』
 - ・河南町もしくは千早赤阪村『いちごアカデミー（南河内地域）』
 - ・水なす+きくなアカデミー（泉州地域）
- 市が開催している就農支援プログラム
 - ・枚方市「ひらかた有機農産物アカデミー」
 - ・茨木市「就農支援塾あぐりば」



参加者募集！ 水なす+きくな アカデミー募集



応募締切
2024年6月17日（月）
まで

申込者向け事前説明会を開催します（参加必須）
2024年6月23日（日）午前予定

就農体験してみませんか？

「将来就農を検討しているけれど、まずは、適性を試したい」そんな方を対象とした研修コースです

◆水なす+きくなアカデミーとは？
JA大阪泉州管内で就農を目指す方を対象に、特産である「水なす」と「きくな（しゅんぎく）」の栽培技術を、座学+プロ農家での長期間の実習を通して学んでいただけます。

◆申し込み方法
裏面申込書によりお申込みください

申込先

泉州農と緑の総合事務所

農の普及課
email senshunotomidori-g04@sbox.pref.osaka.lg.jp

時間 座学8月に3回、農家実習10月から翌年7月まで週1回以上
裏面申込書によりお申込みください

受講料・対象 無料（交通費等実費必要）・18歳から70歳までの就農したい方



▲詳細は上記QRコード
リンク先も参照下さい

主催：JA大阪泉州、大阪府泉州農と緑の総合事務所
お問い合わせ先：岸和田市野田町3-13-2 泉南府民センタービル内

水なす+きくなアカデミー（就農検討コース）募集要項

募集人員	5名程度（選考によります）
受講資格	・満18歳以上概ね満70歳まで（申し込み時点） ・「実施スケジュール」に定める講習、実習等に参加できる方 ・アカデミー修了後に、JA大阪泉州の管内（※）で就農する意志のある方 （※）貝塚市、泉佐野市、泉南市、阪南市、熊取町、田尻町、岬町 ・普通自動車運転免許をお持ちの方
実施スケジュール	令和6年7月～令和7年7月 面接：令和6年7月～9月（実習先候補含めた複数回予定） 講習：令和6年8月4日、18日、25日（3回） 実習：令和6年10月から令和7年7月の毎週1回以上（含む日・祝日） ※農業者による講義合計6時間程度を含みます
研修場所	講習：JA大阪泉州農産物直売所「こーたり～な」2階会議室 （大阪府泉佐野市松風台3-1-1） 実習（予行含む）：貝塚市又は泉佐野市（農業者ほ場） 面接：実施主体から個別に連絡します
費用	受講料は無料。 ※保険料、交通費、食費、実習時の作業着、長靴（専用新品）等の実費は各自で負担いただきます。
備考	実習は、最低週1回以上とし、面接時の希望調査等により決定します。

※都合により、上記日程は変更になる場合があります。

※実習は概ね6時間／回、講習は2時間／回（内容により、変更になる場合があります）。

参考：大阪府

（仮称）みさき農業公園基本計画 目次構成（案）

第1章 （仮称）みさき農業公園基本計画

1. 計画の目的
2. 計画の位置づけ（関連計画）

【参考】農業公園について

第2章 計画候補地をとりまく概況

1. 対象地の位置等
2. 対象地の法規制の概況
3. 道の駅みさきの状況
4. 上位関連計画における位置づけ
5. 地権者の意向
6. 町内事業者・関連団体等の意向
7. 計画候補地をとりまく概況のまとめ

第3章 （仮称）みさき農業公園の基本方針

1. 基本理念（整備コンセプト）
2. 整備機能
3. ゾーニング

第4章 （仮称）みさき農業公園の整備に向けた モデルプロジェクト（案）

第5章 （仮称）みさき農業公園の実現方策

1. 基本的な考え方（段階的な整備）
2. 整備・運営手法
3. スケジュール

■資料編

- ・検討経過
- ・検討委員会委員名簿